

Unit 01

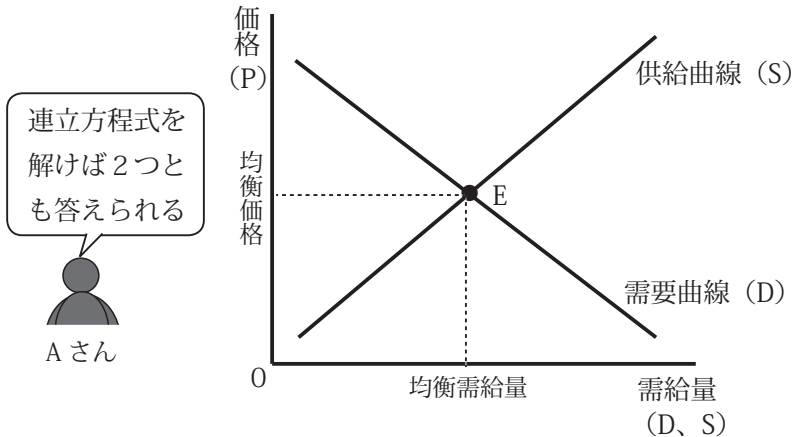
計算編

均衡価格と均衡需給量

ここでは連立方程式を使って、2つの解答を出すパターンを行います。この計算は、以下のような**2つのグラフの交点**で示される均衡価格と均衡需給量を求める場合などに使われます。

考え方 交点を求める

需要曲線と供給曲線の交点 (E) は下図のように表されます。グラフの交点より均衡価格と均衡需給量が求められます。



与えられた需要曲線と供給曲線で連立方程式を作り、解けばよいわけですが、その際に、次の2点に注意しましょう。中学生でもできそうな連立方程式なのに意外な落とし穴があります。

POINT

1. $P = \sim$ の形に整理します。
2. 均衡需給量は $D = S$ なので、 X なども文字を使って**1つの文字**にまとめます。

確認問題

空欄に入る適当な数字を1～3の中から選んでください。

おにぎり市場の需要曲線と供給曲線がそれぞれ、

需要曲線： $D = 140 - P$ (P：価格、D：需要量、S：供給量)

供給曲線： $S = P - 20$

で与えられているとき、均衡価格は（ア）、均衡需給量は（イ）になります。

1. ア：80 イ：60 2. ア 50 イ 70 3. ア 90 イ 50

手順－1

均衡価格、均衡需給量は2つの曲線の交点になるので、連立方程式を解くことになります。

手順－2

まず、それぞれのグラフを「 $P = \sim$ 」に置き換えます。

需要曲線： $D = 140 - P \rightarrow P = 140 - D$

供給曲線： $S = P - 20 \rightarrow P = 20 + S$

(数学でも $Y = \sim$ というように縦軸の記号に合わせたことを思い出しましょう。)

手順－3

次に、均衡点は交点であり、 D (需要量) = S (供給量) になっているので、これらの記号を X に統合し1つの記号にします。

$P = 140 - D \rightarrow P = 140 - X \dots \textcircled{1}$

$P = 20 + S \rightarrow P = 20 + X \dots \textcircled{2}$

ここまで、整理してから連立方程式を解いていきましょう。



正解

手順－4

最後に、連立方程式を解いて、 $P = 80$ 、 $X = 60$ となることから、均衡価格は80円、均衡需給量は60個となります。よって、正解は1です。